EVI環境マッチングイベント2016

―持続可能な社会のための環境貢献最先端成功事例―

～参加された皆様への感謝とご報告～

来場者は300名を超え、
消費者、企業、森林事業者など
様々な立場の方々に「環境」を通じて
交流していただきました！

ポコチェエコ部ビデオクリップ

ポコチェエコ部 部長 兼 モデル　**橘 由夏氏**

東京都心で働く女性向けのフリーマガジン「ポコチェ」で読者参加型としてeco部を発足。「楽しみながら環境貢献」をコンセプトにエコに関して身近に参加できるイベントや取組みをSNSで発信しています。誌面で参加を募り、身近に環境貢献を考えていただく鳥取県日南町のエコツアーを企画。ツアー参加の様子をきれいな景色を紹介するとともに、苗木の植栽体験や日本初カーボン・オフセットできる道の駅「日南日の川の郷」の買い物の様子を紹介。かまどを使った料理体験やお米の試食など、参加者に身近にできる環境貢献を感じていただきました。

船橋市で地元の産品を生かした食の環境メニュー

株式会社ZUCI 代表取締役社長　**桑垣 真紀氏**

千葉県船橋市薬円台が薬に縁のある町だったことから、体に良いとされるタイハーブに着目。タイから種子を輸入して国産のパクチーを生産し商品化しています。コリアンダー（パクチー）を使った商品の差別化をはかるため、EVI商品としてカーボン・オフセットすることで環境貢献の付加価値を付け、お客様に環境貢献型商品という商品の選び方があることへの認知につなげました。また、EVI商品を使ったメニューを開発し東武百貨店内の飲食店で提供するなど、今後も環境貢献という付加価値を付けた売り場や消費者参加型のプロモーションなどを企画し環境貢献の取組みにつなげたいと語っていただきました。

読み聞かせ環境絵本「ポッツリとマルン」

株式会社クリエイティブオフィスエジソン アートディレクター
無量小路 香乃古氏

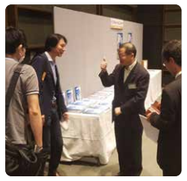
今年も、未来の子ども達の環境教育のため、“水の大切さ”をテーマにした環境絵本を製作し、読み聞かせをしていただきました。なかよしの水滴ポッツリとマルンはある日、雨になって元気な森におりました。二人と他の仲間たちは、地面にしみこみ川となって農産物を潤したり、海まで流れて魚を元気にしてあげたり、みんなは大自然で大活躍。最後に、仲良しのポッツリとマルンが奇跡の再会をする物語です。今回の新作絵本はイベント来場者アンケートにお答えいただいた方に1冊をプレゼントさせていただき、大変好評でした。以前発表した絵本は、EVIのホームページにてサンプルの閲覧、購入が可能です。

私たちにできること

カルネコ株式会社 代表取締役社長（内閣府 地域活性化伝道師）　**加藤 孝一**

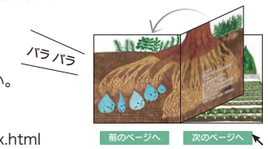
2012年スタートから、今年のテーマ「もっと身近に」の事例をご紹介させていただきましたがいかがでしたでしょうか。消費者調査からも環境意識の向上が見られる中、環境貢献型の商品をEVIでも販売をはじめ、環境貢献できる「道の駅」の誕生。楽器演奏、落語でオフセット。環境をサービスに盛り込むソフトバンク電気様など、貢献できる事例は様々になりました。今後全国10カ所でこのようなイベントを予定しています。来年は10月24日（火）。「私たちにできること」をテーマに、これから1年間、皆様の活動成果の発表を是非期待しております。ありがとうございました。

閉会　　たくさんのご来場ありがとうございました。



お帰りの際、アンケートにお答えいただいた方にもれなく、
森や自然の大切さを伝える、読み聞かせ環境絵本
「ポッツリとマルン」を差し上げました。

●EVIホームページより絵本のサンプルが
　ご覧になれます。
　ご家庭や学校の教材としてご活用ください。
●森のめぐみのおとりよせ、EVI SHOPで
　お買い求めいただけます。
http://www.evic.jp/evi/evi_ehon/index.html



次回のEVI環境マッチングイベント2017のコンセプトは「私たちにできること」。
皆様の一つ一つのアクションが更なる環境貢献につながる事例を
ともに積み上げることができるよう、イベント開催に向けて邁進いたします。
2017年10月24日東京国際フォーラムにて開催予定です。どうぞご期待ください。

2016年度パンフレット

10月20日（木）東京国際フォーラムB7ホールにて開催のEVI環境マッチングイベント2016におきましては、ご多用中にも関わらずご来場いただき誠にありがとうございました。今回で6度目となった当イベントには、一般のお客様を含む全国各地から企業、環境事業者、一般、メディア等、様々な分野でご活躍の総勢300名を超える方々にお集まりいただきました。ＥＶＩ推進協議会スタッフ一同、心より御礼申し上げます。今年は「もっと、身近に」というテーマで、一般の皆様が普段のお買い物を通して環境貢献ができる商品やしくみ、企業が取り組まなくてはならない課題、地域活性化に向けた取組み事例、高校生の活動事例発表など環境教育の広がり、ボルカホンの演奏や環境落語などをご紹介いたしました。ご講演いただいた講師の皆様、ブース出展された方々へおかれましても重ねて御礼申し上げます。来年も10月24日（火）東京国際フォーラムにて、EVI環境マッチングイベント2017を開催いたします。今後とも、EVI推進協議会の活動に変わらぬご理解を賜り、御指導とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

カルネコ株式会社 代表取締役社長
ＥＶＩ推進協議会、内閣府 地域活性化伝道師　加藤孝一

【隔月発行】Re-port EVIレポート
■発行人：加藤孝一　■企画編集：EVI推進協議会　■デザイン：カルネコクリエイティブセンター
■発行所：カルネコ株式会社
〒100-0005　東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内 トラストタワー本館22階　TEL：03-5220-6234

もっと、身近に。

総合司会 磯谷 祐介氏　米森 優子氏

Program & Photo Report

Re-port 特別号

当日のプログラムの概要を抜粋してご紹介させていただきます。

開会挨拶

カルネコ株式会社 代表取締役社長(内閣府 地域活性化伝道師)　加藤 孝一

今回のイベントでは、地球環境がどのように変化しているのか専門家による講演と、環境資源の保護活動をサポートする商品やサービスを創出する企業が、環境を守ることを通じて地域活性化につなげる事例を中心にご紹介いたします。また一般の方60名をお迎えし、消費者の関心が高まっていることも伺える中、環境落語やCheekyの環境パフォーマンスなども取入れ、もっと生活の中に環境貢献を身近に感じていただける内容に仕立てています。イベントを通して一人ひとりが環境貢献の取組みに参画していただく時期であることを伝えました。

【基調講演】地球有限時代へのパラダイムシフト ～発想の転換

東京大学名誉教授「日本UNEP協会」代表理事
鈴木 基之氏

地球の有する資源は、化石資源はもちろん、自然生態系の提供する多様なサービスも有限です。地球の有する容量限界に配慮し、過剰な利用によって生じる諸々の応答を、科学的かつ倫理的に理解しつつ人間活動の姿を改める必要があります。生態系、地球システムはその変化の時定数が大きく、複雑に絡み合っています。近視眼的な理解ではなく、自然に対する謙虚な姿勢を忘れずに挑むことが求められます。持続可能な社会の構築を最終的な目標とするとしても、グローバルな関係性が密になっている現代においては、国際的、地球的な視野に立って、全体最適を図ることが必要です。自己の利益のためにというよりも他者(地球全体のシステム)へ貢献する喜びを生きがいとする時代に入っています。

異常気象と地球温暖化 ～気象キャスターが取組む地球温暖化防止活動

NPO法人「気象キャスターネットワーク」理事長
藤森 涼子氏

現在、地球温暖化による異常気象や災害が多く発生するため、NPO法人 気象キャスターネットワークは2004年から、助成金で子どもを中心に地球温暖化を防ぐ環境教育の活動として、各地の小学校で出前授業を実施。2007年からは企業と協働していて、12年間で4,200校以上で行いました。出前授業で実演されている環境省の研究データに基づいて作成した『2100年未来の天気予報』では、日本各地で真夏日が増え、今まで経験したことがないような大雨や大風などが発生する恐れが予想されています。最後に減災プロジェクト2016の紹介もしていただきました。

日本の水資源の現状と課題

筑波大学 生命環境系 准教授 つくば3Eフォーラム事務局長　内海 真生氏

水資源の現状を最近のデータのもと、迎える状況と課題をご説明いただきました。世界中の水分の約97%は海水であり淡水は約2.5%。我々が生きてきていく生活水は淡水の中で更に僅かです。世界の多くで水が飲めずにいる中、水需要は膨れ、2025年までに世界人口の半分が水不足に陥る発表もあります。雨が多い日本でも1人あたりの水資源保存量は世界平均より下回ります。雨から取れる貴重な淡水をダム、河川、地下水からいかに利用するか、有機物の汚濁や化学汚染を排除する研究を進め、生命に不可欠である水を、重要な国土資源として守り、世界へ技術協力していくことが必要です。

ブースツアー　マッチングタイム

日本各地から集まった40ブース。

企業や自治体など40箇所による様々な環境貢献事例が展示されました。昼食の際は、セミナーエリアにて各ブースの取材動画を放映。また、今年はワークショップも開催。みなさん思い思いのメッセージをうちわやハガキに込めていただきました。エヴィも環境問題を出題するなど大活躍でした！

21世紀の環境と企業経営

パリ協定とグリーン金融

国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)特別顧問 国際金融アナリスト　末吉 竹二郎氏

昨年行われたCOP21で採択されたパリ協定に関して、金融界の動向を中心にした話がありました。金融業界では、これまで投資対象になっていた石油関連企業からの投資引き揚げ(divestment)がすでに始まっていて、現在金融資産価値があるとみなされているものも一瞬にして価値を失うリスクがあるということ、排出が前提の“低炭素(low-carbonizaztion)”から、そもそも出さない“脱炭素(de-carbonizaztion)”へ価値観の転換が実際に動き始めているのが今の世界の現状であると、具体事例を紹介しながらご講演いただきました。

再生可能エネルギー×地域社会をつなぐ未来プロジェクト

ソフトバンク株式会社 エナジー事業推進本部 執行役員本部長
SBパワー株式会社 代表取締役社長　馬場 一氏

ソフトバンクグループでは電力の自由化をきっかけに、再生可能エネルギーの普及・拡大を推進しており、普通の電気ではなく、太陽光など再生可能なエネルギーで発電されたFIT電気の比率の高いFITでんきプランをご紹介いただきました。電気サービスを通じて、よりよい未来を創る、でんきを選ぶことにより未来を変える、そういうサービスをこれからも作り続けるソフトバンクと一緒に、EVIも日々の暮らしの中で環境貢献できるよう活動を進めてまいります。

地域循環型のクレジット活用スキーム構築事例と削減系クレジットの取引サイト『JCCP』の紹介

カーボンフリーコンサルティング株式会社 取締役
カーボンオフセット協会副会長　池田 陸郎氏

環境専門のコンサルティングファームであるJCCPは、環境省・経産省・自治体の委託を受け、企画立案から運営まで温暖化対策のサポートを年間60件ほど行っています。目に見えないもの(CO2価値削減量クレジット)を売買するにあたって、国が信頼性を担保した保有講座を各法人が銀行のウェブ口座のように開き運用することができます。クレジット1トン当たりを国から証明書をもらい管理し、オフセットプロバイダに証明書を発行。証明書が取組みのアピールになります。また、EVIはストーリー性の高い森林の価値をJCCPは大量のJ-クレジットを比較的安価で調達し、展開しています。

私達にできること

日本初カーボン・オフセット道の駅『にちなん日野川の郷』

日南町役場 自立改革推進本部 未来創造専門監　浅田 雅史氏
農林課 林政室 主幹　島山 圭介氏

森林面積が全体の約9割という緑に育まれた日南町は、他では見られないオオサンショウウオ、姫蛍などを始めとした貴重な生態系が人々の暮らしのすぐ隣に現存し、環境に配慮した森林管理が必要とされています。杉、檜の間伐などの適切な山の保全など共存を実行していく町作りを進め、日南町の環境にこだわった道の駅建設を計画。EVIのしくみを取入れ、1品1円の寄付型オフセットをスタートし、生態系・環境保全に役立つ仕組みを構築。道の駅が排出するCO2も町が保有しているJ-VERを購入してオフセットを行い、日本初のカーボン・オフセット道の駅となりました。

高校生が行うカーボン・オフセットとEVIマークを活用した地域の環境意識改善の取組

愛知県立南陽高等学校 Nanyo Company部
柘植 政志先生　井浦 未尋さん　吉田 実央さん

高校生らしい、はつらつとした成果発表が行われました。地域のために何ができるのかを自分たちで考え、エコバック等商品の開発や販売、地域イベントへの出店などを継続して行ってきました。フィリピンのココヤシを使ったキーホルダーのフェアトレードやカーボン・オフセット制度を活用し、昨年は第5回カーボン・オフセット大賞で特別賞を受賞。EVIを活用して地域や世界、環境にも配慮した地域貢献活動を提案、実践している部活動です。

つばさ総合高校のカーボン・オフセットの取り組み／つばさ高校ビデオレター

東京都立つばさ総合高等学校　ISO委員会 荘司 孝志先生

中間試験のため生徒が自作したビデオクリップで活動の様子が紹介されました。2002年に開校した新しい学校で、「環境教育」に特化した学校作りを目指し、その一環として2004年3月にISO14001の認証を取得。以来ごみの削減や電気使用量の削減活動、年1回の高校生環境サミットの運営などを行っています。生徒が直接クレジット創出団体を取材し、内容を一般の方に説明。その後、「本校にふさわしい購入先は？」と投票をお願いし、その結果で購入先を決めるなどカーボン・オフセットを自分たちが知り、そして知っていただく活動を行いました。

もっと身近に環境貢献

【環境パフォーマンス】ボルカホンLIVE

ボルカホンラインダンスユニット Cheeky

環境貢献型商品でもある段ボール製のカホン型打楽器『ボルカホン』を使って、ラインダンスと組み合わせたパフォーマンスを演じていただきました！ゆるキャラのボルンとボルカも会場をわかせ、来場された方々も大変盛り上がりました。Cheekyは1公演につき500円を森林支援に寄与し、ライブを通して環境貢献に参加しています。

【環境落語】「改作落語 和尚とちん念」

落語芸術協会 真打 春風亭 柏枝

環境落語 改作「和尚とちん念」を“カーボン・オフセット”って？知ったかぶりはいけません！というメッセージを込めて、カーボン・オフセットを面白おかしく真面目に披露いただきました。これまでのイベントには無い新しい試みを皆様楽しんでいただきました。春風亭柏枝師匠は1高座につき150円を森林支援に。森を守る日本初の落語家を宣言していただきました。